

第51回全日本大学男子選手権大会

平成28年8月26日(金)～29日(月) 鹿児島県南九州市/知覧平和公園他

環太平洋大(岡山)

死闘を制し、6年ぶり2度目の優勝!

日ソ協記録委員 本部 享



ノーヒット・ノーランを達成した国士館大・池田

「平和の尊さを語り継ぐ町」として知られる鹿児島県南九州市・知覧平和公園を主会場に、記念すべき第51回全日本大学男子選手権大会が開催された。今回は、次の半世紀へ「前進する」という願いを込め、出場チーム枠を従来の32チームから拡大。計40チームが参加しての戦いとなった。
今大会は時折スコールを思わせるようなゲリラ豪雨に悩まされながらも、南薩支部及び南九州市協会の周到な準備のもと運営され、3回戦では国士館大(東京)の池田空生投手が中京大(愛知)を相手に無安打無得点試合(許した走者は死球の走者一人のみ)を達成する等、「大学日本一」の座をかけた熱戦が繰り広げられた。

準決勝には、これまで優勝経験がある「名門」国士館大、環太平洋大(岡山)をはじめ、初の決勝進出を狙う常葉大(静岡)、岡山大(岡山)の4チームが名乗りを上げた。
準決勝では、環太平洋大が岡山大との「岡山勢対決」に3-1、国士館大が常葉大を5-0の完封で退け、決勝に進出。決勝は、環太平洋大が国士館大との延長10回タイブレーカーに及ぶ「死闘」に6-5のサヨナラ勝ちを収め、6年ぶり2度目の優勝を飾った。

〈準決勝〉

常葉大

00000000
010121x5

国士館大

(常) ●田村-山本

(国) ○池田・星野-服部

▽困横山(国) 三西田(国)

(審) P当房 1梶井 2上釜 3吉森

(記) 田中

国士館大は2回裏、この回先頭の4番・西田が左中間を破る三塁打で出塁。一死後、6番・三崎の中前適時打で生還し、先取点を挙げると、4回裏にも二死一・二塁から7番・後藤が中前適時打を放ち、1点を追加。5回裏には一死一塁から2番・横山の中越ツーラ

第51回全日本大学男子選手権大会

1	熊日九愛香中北福国九京高大常宮松四東立日関早神中福大岡日高広城東東日大長環関中	3	3
2	本州	4	1
3	学本共知川京	1	7
4	立	11	8
5	園	6	12
6	立	1	1
7	道立館業業科	1	1
8	立	10	0
9	産産工済業教山王海	0	5
10	州都知経	7	2
11	城天	9	4
12	命	0	1
13	本	3	0
14	本	0	6
15	本	7	2
16	本	2	0
17	本	0	10
18	本	0	2
19	本	0	8
20	本	0	2
21	本	0	8
22	本	0	8
23	本	0	8
24	本	0	8
25	本	0	8
26	本	0	8
27	本	0	8
28	本	0	8
29	本	0	8
30	本	0	8
31	本	0	8
32	本	0	8
33	本	0	8
34	本	0	8
35	本	0	8
36	本	0	8
37	本	0	8
38	本	0	8
39	本	0	8
40	本	0	8

岡山大
00100000
0300000x
3 1

環太平洋大
(岡) ●真壁一三村
(環) ○先村一山内

ンで2点。6回裏には二死二塁から代打・中島(海)の三遊間を破る適時打でダメ押し5点目を加え、勝利を決定づけた。

常葉大は、国士館大・池田、星野の投手リレーの前に散発3安打と打線が沈黙。完封負けを喫し、初の決勝へ駒を進めることはできなかった。

▽三長畑(岡)
〔審〕P芝原 1笹平 2外園 3富永
〔記〕大木

環太平洋大は2回裏、四球、盗塁で二塁に進んだ6番・三谷を、8番・尾本が左前適時打で還し、先制。なお一死二塁の好機が続き、9番・山本、1番・宇根、2番・浜本の3連打で2点を追加。この一回一挙3点を挙げ、試合のペースを握った。

守っては、先発・先村が被安打2・奪三振9の力投。3回表に1点を返されはしたものの、最少失点に留め、2度目の優勝に王手をかけた。

岡山大は、3回表に一死二塁から9番・中脇の三遊間を破る適時打で一矢を報いたが、環太平洋大・先村の前に

環太平洋大
00003020000
00013100001x
6 5

国士館大

追加点を奪えず、準決勝敗退。常葉大と同じく初の決勝進出はならなかった。

《決勝》

国士館大

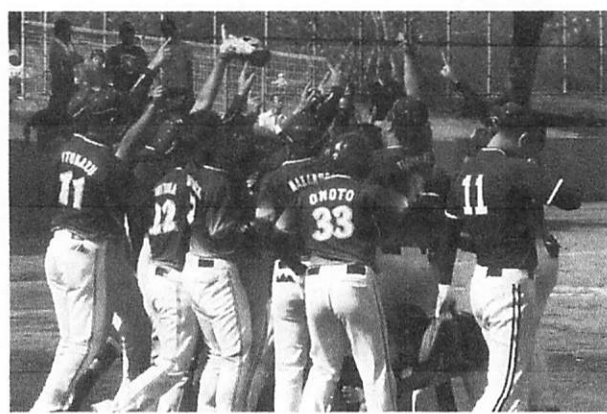
環太平洋大

(国) 池田・星野・●池田一服部
(岡) 先村・児玉・○先村一山内
▽本浜本、小見山(環)
三横山(環) 山内(環)
三後藤、八角(環)
山内、宇根、細川(環)
(審) P 榎下町 1吉森 2梶井 3名越
(記) 田中

両チーム無得点のまま迎えた4回裏、環太平洋大は無死一塁から5番・山内の左越適時二塁打で1点を先制。

国士館大も5回表に二死一・二塁の好機を作り、2番・横山、3番・八角の長短打で一挙3点を挙げ、逆転に成功した。

環太平洋大はその裏、2番・浜本の中越ツーランと5番・山内の中越適時三塁打で3点を奪い返し、再びリードすると、6回裏には代打・小見山が右中間にソロ本塁打を叩き込み、5点目を追加。これで勝負は決したかに見える。



3時間30分を超える激戦の末、環太平洋大が頂点へ！

しかし、国士館大は土壇場の7回表、2番・横山の2打席連続の三塁打と3番・八角の右越適時二塁打で同点。両チームの「意地」と「プライド」がぶつかり合う激戦は、延長タイブレーク1へともつれ込むことになった。

8回、9回は互いに得点を挙げられず、10回表も国士館大は無得点。環太平洋大はその裏、タイブレーカーの走者を二塁に置き、二死となった後、7番・細川が初球を鋭く一振り。外野へ放たれた打球は左中間フェンスを直撃する二塁打となり、歓喜のサヨナラ！3時間30分を超える「死闘」にとうとう終止符が打たれ、環太平洋大に6年ぶりの栄冠がもたらされた。